

【第129回対策本部会議】 4月8日

健康福祉部長／直近1週間の感染者数は、週末が300人台、平日は400人を超えている。先週から増加傾向にあり、先週は2,343人で前週比1.76倍、今週は2,522人と1.08倍。今週は先週より下がったが、若干増加傾向にある。

異動に伴う飲食で人と接する機会が増えたことや、変異株BA.2の影響が考えられる。

病床使用率は25.6%、うち中等症者の病床使用率が6.2%。ホテル使用率は46.2%、自宅療養者は2,656人。

これは3回目のワクチン接種と高齢者の陽性者数を表した図。黄色の線が3回目の高齢者ワクチン接種率、青の棒グラフが高齢者の陽性者数。ワクチン接種が進むにつれ、感染者数が減っている。また、死亡者数も減っているため、一定のワクチン効果がみられる。今後も重症化リスクの高い人への感染抑制に取り組んでいきたい。

最近の感染状況では、10代から30代の感染増加が気がかりだ。感染者数が増えると、医療機関への負担が増える。今週に入り、医療現場から、若年層の感染防止対策の徹底を県から喚起してほしいとの要望があった。

感染防止対策について改めて説明する。

- ・職場では、休憩、昼食、歯磨き、喫煙などマスクを外す場面で感染対策の徹底を。
- ・プライベート時の飲食や懇親会などでは、長時間、大人数、大声などを避ける。また利用場所の換気の有無もチェックしてほしい。

最近の感染事例では、職場や友達と車で移動する際、マスクを外していた場面があり、感染につながった例もある。

また、体調に異変がある場合は出勤を控える。感染した場合の家族や医療機関への負担や影響を考え、感染防止対策の徹底をお願いする。

坂本副知事／若年層にはワクチン未接種が多い。オミクロン株に感染しても軽症や無症状だと考え、ワクチンの副反応の方を避ける人がいる。若年層でも感染すれば、治癒までに時間がかかることもある。可能な人はワクチン接種をお願いする。

感染対策の目的は、家族や医療機関への負担を抑えることと、高齢者にうつさないこと。現在、高齢者施設で感染者が少ないのは、高齢者施設や医療機関のスタッフの尽力の成果だと思う。

ワクチン接種は自分のみならず、家族、医療機関、高齢者のためにも検討してほしい。

教育長／3月下旬から、児童・生徒の感染が増加傾向にあった。新年度が始まり、入学式で県立学校に行った。学校内での感染対策は徹底され、定着もしている。感染事例をみると、授業や部活動中よりもその前後、あるいは休日や放課後にマスクを外した会話や飲食で感染者が出ている。

学校内の感染対策だけでなく、児童・生徒の仲間内でも緊張感を持って感染対策に取り組むよう指導することを各学校に伝える。県教育委員会は、学校や市町教育委員会と連携し、ともに感染対策に取り組んでいく。

知事／オミクロン株の第6波は、対応が難しい局面にある。若年層は軽症が多く、第6波以降では50歳未満での死亡や重症化はない。引き続き、高齢者への感染対策を徹底する。

佐賀県は高齢者の3回目のワクチン接種率が全国で3番目。ワクチンが重症化しない要因になっている。

また、佐賀県は人口別の外来受療率が日本一。これは、何かの症状が出たときに診療を受けやすい環境であり、県民にとってはありがたいこと。一方、医療機関は、もともと受診者が多いところに新型コロナの患者が増え、対応が厳しい状況が続いている。軽症、中等症にかかわらず、感染しないことが佐賀県の医療資源を守ることにつながる。

若年層は重症化しないと流布されているが、県民一丸となって基本的な感染対策に努めたい。

新学期が始まり、子供たちには必要以上に不安がることなく、基本的な感染対策を続けてほしい。

医療機関、高齢者施設、保健所、ワクチン現場で尽力してくださる皆さんに心から感謝申し上げます。引き続き、誹謗中傷など決して行わないようお願いする。

佐賀県は現場の状況を注視し、コロナ対策に取り組んでいく。